

オステオスペルマムの新花色品種 「ヴィエントラビオス（仮称）」

研究のねらい

本県のオステオスペルマムは鉢物、花壇苗として生産され、出荷量、生産者数ともに全国でもトップクラスを誇っています。生産者は生産拡大に取り組んでおり、その一環として新品种の育成があります。農業技術センターではこれまでに、イオンビーム照射を利用して（独）日本原子力研究開発機構、（有）はなせきぐちと共同で「ヴィエントフラミンゴ」を育成しましたが、さらにバリエーションを追加するため、「ヴィエントフラミンゴ」へのイオンビーム照射を行い、同品種の花色や草姿が異なる新品种の育成に取り組みました。

技術の特徴

1 育成経過

平成20年度に「ヴィエントフラミンゴ」の葉片培養物にイオンビーム照射を行い変異個体を獲得後、選抜を行いました。その後、農業技術センターで選抜及び特性調査を継続し、平成22年度に地域研究員である関口政行氏と共同で最終的な選抜を行うとともに、特性が安定していることを確認して育成を終了しました。平成23年12月に「ヴィ

エントラビオス（仮称）」と命名して品種登録出願し、平成24年3月に出願公表されました。

2 品種特性

- (1) 花色がこれまでにない独特のオレンジ系です。
- (2) 花は中輪で、舌状花の長さや幅のバランスや舌状花同士の重なりや重なり具合のバランスがとれ、花形に優れています。
- (3) 草姿は半直立性であり、草丈はヴィエントフラミンゴと同程度です。
- (4) 開花時期は「ヴィエントフラミンゴ」や「マザーシンフォニー」と同時期（1～6月）です。
- (5) 色あせが少なく、長く花を楽しめます。
- (6) 耐暑性に優れ、栽培が容易です。

今後の取り組み

平成25年から販売されています。オステオスペルマム生産の一翼を担うことが期待されます。

（執筆者：岡村 成章）



写真1 ヴィエントラビオス（仮称）
—花の拡大写真—

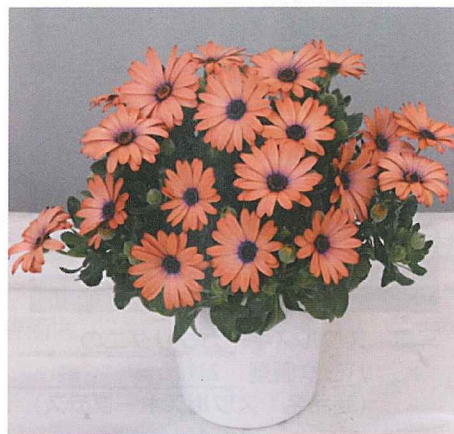


写真2 ヴィエントラビオス（仮称）
—5号鉢での開花状況—